

在セネガル日本国大使館月報

2026年1月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 4日、与党PASTEFは、ソンコ党首の主導で結党12周年を迎えた。

(外政)

- 12日から14日にかけて、ファイ大統領がクウェートを公式訪問し、平和と開発を目指す戦略的パートナーシップ強化のため協議。
- 10日、ファイ大統領がECOWASミッションの一環としてギニアビサウを訪問。
- 14日、アブダビ(UAE)で開催された国連水会議2026準備セッションにファイ大統領が出席し、持続可能性週間の一環として首脳級会議に参加。
- 26日から28日にかけて、ソンコ首相がモロッコを公式訪問し、アハヌーシュ・モロッコ王国首相とともに、第15回合同委員会の開会式を主催。
- 29日、ニャン外相とジョップ国防相がギニアビサウを訪問し、政治犯釈放をギニアビサウ暫定政権に呼びかけた。

(経済)

- 8日、ソンコ首相はIMFの債務再編に応じない方針を再表明し、政府独自の経済社会再建計画に取り組む姿勢を強調。
- 21日、ソンコ首相は国の生産基盤を持続的に変革することを目的とした「2026 - 2028年特別投資・融資計画」を発表。

カーボベルデ

- 19日、政府は2026年5月17日に国民議会選挙、11月15日に大統領選挙(決選投票は11月29日)を実施すると発表。

ガンビア

- 27日、ガンビア政府と日本政府が食糧援助(2億円、約9,500万ダラシ)に関する書簡を交換。

ギニアビサウ

- 8日、ギニアビサウの軍事政権はPAIGC党首ドミンゴス・シモエス・ペレイラ氏を除く3人の政治家を釈放。
- 10日、ファイ・セネガル大統領とビオ・シエラレオネ大統領(ECOWAS議長)がECOWAS共同ミッションでギニアビサウを訪問し、クーデター後の軍指導部や主要野党とともに、ンタ「暫定大統領」を初めとする「暫定政権」と移行プロセスと拘束者の釈放について議論。
- 21日、「暫定大統領」は次期議会・大統領選挙の日程を2026年12月6日に設定。
- 30日から31日にかけて、在ギニアビサウナイジェリア大使館で保護されていたディアス氏とビサウ市内の刑務所で拘束されていたペレイラ氏が釈放された。ペレイラ氏は自宅軟禁となった。

セネガル

(出典は Le Soleil 紙、RFI、大統領府 HP、セネガル外務省 HP、APS、Jeune Afrique、ロイター、Sika Finance。)

(内政)

内政一般

- 4日、与党PASTEFは、ソンコ党首の主導で結党12周年を迎えた。

(外政)

二国間・多国間関係

- 8日、ジャイ・モーリタニア首相が、2025年のソンコ首相によるヌアクショット訪問に続き、初の公式訪問でセネガルを訪れた。
- 10日、ファイ大統領がECOWASミッションの一環としてギニアビサウを訪問。
- 12日から14日にかけて、ファイ大統領がクウェートを公式訪問し、平和と開発を目指す戦略的パートナーシップ強化のため協議。
- 14日、アブダビ(UAE)で開催された国連水会議2026準備セッションにファイ大統領が出席し、持続可能性週間の一環として首脳級会議に参加。
- 24日から29日にかけて、ンジャイ国民議会議長が中国を訪問し、副大統領、全国人民代表大会常務委員会委員長等と面会。また、農業施設、自動車大手企業を視察。
- 26日、ファイ大統領がアブドゥ・ジョフ国際会議センターで、2026年12月アブダビ開催予定の国連水会議準備ハイレベル会合を主催。
- 26日から28日にかけて、ソンコ首相がモロッコを公式訪問し、アハヌーシュ・モロッコ王国首相とともに、第15回合同委員会の開会式を主催。
- 29日、ニャン外相とジョップ国防相がギニアビサウを訪問し、政治犯釈放をギニアビサウ暫定政権に呼びかけた。

(経済)

経済一般

- 8日、ソンコ首相はIMFの債務再編に応じない方針を再表明し、政府独自の経済社会再建計画に取り組む姿勢を強調。
- 21日、ソンコ首相は国の生産基盤を持続的に変革することを目的とした「2026 - 2028年特別投資・融資計画」を発表。
- 20日、モーリタニア・マリ・セネガルの3か国の国境地帯で、水資源管理と気候安全保障を目的とした越境プロジェクトが開始。国連平和構築基金が700万ドルを拠出し、UNICEFとIOMが監督する。
- 27日、ファイ大統領は、リュフィスク県(西部)のバルニー・サンドゥにてセネギンディア(Senegindia)グループ(インド系不動産デベロッパー)による工業団地の起工式を主催。

(社会)

- 10日、ダカール近郊チャロイ沖でセネガル発の移民を載せた木船が難破し、約60人が救助された。

(文化・スポーツ)

- 18日、セネガル代表がサッカー・アフリカ杯決勝戦で開催国モロッコを破り、2度目の優勝を果たした。

カーボベルデ

(出典は Balai、Inforpress、O Democrata、Expresso das ilhas、カーボベルデ政府、A Nação、Voz do archipelago。)

- 8日、モンテイロ産業・通商・エネルギー大臣及び駐カーボベルデ・ルクセンブルク大使が出席した「エネルギー転換支援プログラム」の2026年活動計画が承認された。
- 16日、カーボベルデは、EU及び欧州投資銀行(EIB)とブルーエコノミー強化、港湾インフラの戦略的投資、及び漁業セクターの持続可能な開発を目的とした、総額3,330万ユーロの資金協定に署名。
- 16日、政府はオスカル・サントシュ現中央銀行総裁の再任を決定。
- 19日、ネーヴェシュ大統領は外交団への新年挨拶で、国連の抜本的な改革と気候危機への具体的対応の必要性を強調。
- 19日、政府は2026年5月17日に国民議会選挙、11月15日に大統領選挙(決選投票は11月29日)を実施すると発表。

ガンビア

(出典は The Point。)

- 6日、2025年のガンビア人移民の死亡者は合計893人(うち840人が海上、53人が陸上)に上ったと、活動家のドラマが発表。
- 7日、元ガンビア内相ソンコ被告の控訴審が2026年3月30日にスイス連邦刑事裁判所で開始予定。ソンコ被告は2024年5月15日に人道に対する罪で禁錮20年の判決を受けており、被告・検察・原告側が共に控訴している。
- 27日、ガンビア政府と日本政府が食糧援助(2億円、約9,500万ダラシ)に関する書簡を交換。

ギニアビサウ

(出典はギニアビサウ外務省、ECOWAS、Jeune Afrique、Radio Capital FM、O Democrataほか。)

- 5日、米国政府はギニアビサウを含む7か国に対し、米国ビザ申請時に13,700ユーロの保証金を求める新規定を導入。
- 8日、ギニアビサウの軍事政権はPAIGC党首ドミンゴス・シモエス・ペレイラ氏を除く3人の政治家を釈放。
- 10日、ファイ・セネガル大統領とビオ・シエラレオネ大統領(ECOWAS議長)がECOWAS共同ミッションでギニアビサウを訪問し、クーデター後の軍指導部や主要野党とともに、ンタ「暫定大統領」を初めとする「暫定政権」と移行プロセスと拘束者の釈放について議論。
- 13日、「国民移行評議会」が、大統領を国家元首かつ政府長とする新憲法を採択。議会名も「国民議会」と改称された。
- 21日、「暫定大統領」は次期議会・大統領選挙の日程を2026年12月6日に設定。
- 30日から31日にかけて、在ギニアビサウナイジェリア大使館で保護されていたディアス氏とビサウ市内の刑務所で拘束されていたペレイラ氏が釈放された。ペレイラ氏は自宅軟禁となった。

(注) 本報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの「報道」を当館限りでまとめたもの。

(了)